

平成28年第2回中津川市教育委員会（定例会）議事録（要旨）

日 時 平成28年2月17日（水） 午後1時00分

場 所 にぎわいプラザ 6-1会議室

出席委員 小栗 仁志 田島 雅子 小幡 隆徳
松田 幸博 大井 文高

事務職員 勝事務局長・原文化スポーツ部長・原教育次長兼学校教育課長
今井事務局次長兼教育企画課長・末木文化スポーツ部次長
小林図書館長兼蛭川済美図書館長・西尾教育研修所長
小椋幼児教育課長・山下子育て政策室長・西尾阿木高等学校事務長
辻発達支援センターつくしんぼ所長兼発達相談室長
大山生涯学習スポーツ課長・川合文化振興課長兼市史編さん室長
川上鉱物博物館長・楯中央公民館長・二村図書館副館長

会議日程 1 開 会
2 前回議事録の承認
3 教育長報告
4 議 事
5 閉 会

番 号	議 題	結 果
議第2号	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について	承 認
議第3号	中津川市アートピア付知交芸プラザの設置等に関する条例施行規則の一部改正について	承 認
議第4号	中津川市東美濃ふれあいセンターの設置等に関する条例施行規則の一部改正について	承 認

【開 会】

【議 事】

【委員長】議事に入ります。日程第1、議第2号 中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について、提案説明をお願いします。教育企画課長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】補正予算について、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】中学校施設営繕事業の坂本中テニスコート坊球ネットは、防ぐの方ではないですか。

【委員長】教育企画課長。

【教企課長】防ぐの方です。

【委員長】防ぐという字に訂正をお願いします。そのほかご意見、ご質問ありますか。

それでは引き続き、平成28年度中津川市歳入歳出予算について、提案説明をお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】教育企画課のところからご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】6ページ、保育所施設営繕事業が教育企画課でなされると伺いました。少しでもきれいで整った環境で子どもたちを過ごさせてあげることが心の成長にもつながっていくと思いますので、本腰を入れてやっていただけることは本当に有り難いことです。お金をかけるのはもちろんのことですが、ほんの少し手間をかければそこがきれいになるところもたくさん見せていただきましたので、これは幼児教育課の分野だと思うんですが、職員の方の気持ちですよね、ほんの5分でも雑巾を持ってやってみようとか、ほんのちょっとでも土を掃ってやろうという気持ちを高めていくことも非常に大事なことです。お金はもちろんのことですけど、お金をかけてきれいにしてもらえれば、それ以上に気持ちを高めていていただきたいと思います。

【教企課長】この1年間、園を見させていただいた中で、多く感じたのは、メンテナンス的なところがやはり手が届かなかったところが多いと感じております。些細なところですが、なかなか手間がないと思うんですが、少し手を入れていただくと、こんな故障はなかったのにといいところもあつたりします。見たところ、職員の手で直せる部分もかなりありまして、そういったところは課の職員で全部手を入れていった1年間でした。やはりそういった職務に慣れた者ということで、私どもの方でやらしていただくということで、逆に言えばそれが効率がいいのかなと考えています。

【委員長】 幼児教育課長。

【幼教課長】 ご指摘の通りだと思います。なかなか人手がないのですが、それを言い訳にすることなく、きちんと日頃の整理整頓もするように、園と話をしていきたいと思います。

【田島委員】 苗木中学校の女性の校長先生がおられたとき、図書館を自分で壁を塗っておられました。鼻にペンキを付けながら、自分で全部やりましたと教えてくれました。非常にきれいな明るい図書館になっていました。時間がないところを頑張っておられた方もおられます。ちょっと手を加えれば、ちょっと自分で掃えばできるというところもあるような気がします。よろしくご指導をお願いします。

【委員長】 そのほかご意見、ご質問ありますか。小幡委員。

【小幡委員】 遠距離通学のスクールバスの運転手賃金とか、そのあたりで人件費が減額になったことについて、精査をした中での減額ということですが、これは、今いろいろなバスの事故があったり大変なことが起きていますが、精査したことによってきちんと運行できるようになるということなのか、かなり厳しく絞め付けたということなのか。精査の内容を教えてくださいたいと思います。

【教企課長】 精査は首を絞めることではなくて、しっかりと積算した中での余分が出てきたというところで、業務に関しては全く支障がないところです。運転手については、学校に関わる運転手ということで、給食運搬員もそうですが、年齢制限を要項の中で設けています。70歳までの採用に止めるということでブレーキをかけています。そういった中で運転手さんの方にもお願いしておりますので、安全面もしっかりと見ながら、予算もしっかりときちんとさせていただき、業務には全く支障のないものです。

【委員長】 そのほかございますか。

それでは、続きまして、学校教育課に関して何かご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】 非常に厳しい中の減額という表現を使われました。指導助手などの学力向上支援事業の減額についてお話しされたときです。何か28年度は減額の縛りがあるのでしょうか。

【学教課長】 財政的には全体的には非常に厳しいということは聞いています。言い方が間違ったかもしれませんが、その中で、人的支援については確保するという強いものをもって臨んでいます。各学校の要請もありますし、子どもたちがそこで学力を付けていく、あるいは安心・安全を保てるというところの確保で有り難いなど思っています。しかしながら、その分をどこかでやはり切れるところは少しずつ削っていく。先ほどのお話にもありましたが、子どもたちや安心・安全でマイナスになるということではなく減額したところです。たとえば、学力支援事業の中に学力検査、就学の知能検査等がありますが、各学校で検査用紙が余分に取ったりするん

ですが、それをグッと切り詰めて、何とかならない分は学校同士で回してでも使うということで、対応します。予備を少なくするというように切り詰めます。ただ子どもたちには負担や不利な部分はないように切り詰めていきます。

【委員長】 そのほかご意見、ご質問ありましたらお願いします。小幡委員。

【小幡委員】 諸収入で、給食費実費徴収金ですが、この延滞金が出るのではないかといつも心配します。現状どうなっていますか。あった場合には徴収について努力していることがあったら教えてください。

【学教課長】 まず給食費の延滞のことについてです。ここずっと、25年度、99.6%ということで、かなり上がってきていると思っています。その前は99.4%です。しかしながら給食費が延滞しているところもあり、そこに対応しているのは教頭や事務官であったりします。気長に丁寧に保護者様に対応をお願いしているところではあります。

加えて、今の質問にはなかったかもしれませんが、給食費が少し大きく減額しています。2,347万7千円です。この主な原因は3つあります。1つは、児童生徒数が減っていることです。2つ目は、給食のシステム、27年度に購入した献立ソフトによって減額が生まれました。3点目は、賄材料費について、予算不足が生じない程度の実児童生徒数により、積算した予算を計上したことが、減額となった要因です。

【小幡委員】 今のご説明で安心しました。給食費が滞納された場合に、校長、教頭、事務官あたりの対応が難しいこともありますので、どうしても担任にも負担が行くということもあると思います。そのことについてはぜひ学校でないように、子どもも現実にいるわけですので、担任が対応するということについては相当慎重に行わなければならないだろうと思いますし、できるだけ管理職のところで対応できるようにご指導をお願いします。

【委員長】 事務局長。

【事務局長】 今の対応に加えて、親の承諾を得て、障害援護課に協力を得ながら、児童手当から相殺するという手当ても取っています。

【委員長】 そのほかございますか。

私から1点教えてください。前回の28年度の新規事業で皆様方からも大変いいと言っていた「市内 de オリンピック事業」「ものづくり中津川っ子プロジェクト」、あの辺りはどの項目に含まれているのでしょうか。

【学教課長】 施策でいくと、ものづくりプロジェクトは、中津川の3つの施策がある中の、生き抜く力を育む学校教育というところで取り組んでいきたいと思っています。今、予算については2つのことは入っていません。これからライオンズ様などから協力を願って、最初は小規模だとは思いますがやるのが一つです。ものづくりプロジェクトは、今後やっていくことですが、まずその土台となるデータ、資

料を学校に提示して手を挙げていただいでやっていくということになるので、28年度は実施はしますがまずその土台作りになると思っています。予算はまだ入っていません。

【委員長】教育長。

【教育長】今挙げていただいたような事業は、お金をかけてやるのではなく知恵を使ってやる事業として仕組みなさいと言ってあります。ものづくりのプロジェクトについても、まずは情報収集しながら、関係機関とのつながりを付けるということが必要です。それで来年度プログラム化することがまず第一です。その上で、巧みの技をお持ちの方などに学校へ来ていただく、お招きするというを基本に考えていきます。この事業では、関係機関ともつながりながら、地域全体で子どもを育てていくということを重視し、人が動き、連携することで作り出していきたいと考えています。

【委員長】そのほかございますか。

それでは続きまして、教育研修所に関して、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】教育研修所にも新しいプランがあるということで、ほとんど減額になっているということで、これもちょっと心配しています。大丈夫でしょうか。

【教研所長】教育研修所の事業につきましても、新しく来年度入れさせていただくスクールソーシャルワーカーにつきましても増額となっておりますが、そのほかの事業につきましてもいろいろ工夫をしますが、お金をかけずに知恵を使って頑張りたいと思います。

【田島委員】お金をかけずに知恵を使って。私たちも知恵を絞り出して協力できる場所はしたいと思います。

【委員長】そのほかございますか。小幡委員。

【小幡委員】大変有り難いと思って、ぜひ頑張ってもらいたいと思っています。子ども自立援助事業の中で、スクールソーシャルワーカーを配置できることがはっきりしてきましたので本当に心強いと思います。メンタルフレンド、個別相談アシスタントの活用等をして、なかなか出て来られない子どもたちがたくさんいますので、学校あるいはそういった学校に準ずるようなところへ子どもたちが出て来られるように頑張ってもらえれば有り難いと思います。

【委員長】そのほかよろしいでしょうか。

それでは続きまして、阿木高等学校につきまして、何かございましたらお願いします。

続きまして、幼児教育課につきましてご意見、ご質問ありましたらお願いします。

続きまして、子育て政策室につきましてご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】先ほど室長の説明で、中津川市は本当に手厚い保育料だということが、私たちには分かったのですが、なかなか一般の方たちの腹には入っていないような気がするんです。生活の中でお話をしていらっしゃる方々は、確かに自分の生活と比べれば保育料が高いという話にもなってくるので、よそと比べるとこれだけ手厚いケアをしているということは広めていって、皆さんの口に上らせて、子育てしやすい中津川というところを強調すれば、定住にもつながります。内にこもらないでできるだけ外へ外へという政策を発信していっていただきたいと思います。

【子政室長】ピーアールが本当に下手だと常に思っています。広報に載せたから、ホームページに載せたからということで周知できたようなつもりになっているところもありますので、ピーアールに努めていきたいと思います。

【委員長】続きまして、発達相談室と発達支援センターについて、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】子ども相談・支援事業の減額の8千円とか、保育所等訪問支援事業の消耗品、燃料費の3千円という細かい減額があり、その前にも1万円の減額、6万円の減額という、非常に細かい減額が気になります。見込んであったものを引いたのか、上手な節約でこういう結果になったのか。大きな事業の減額は理由を教えてください分かったんですが、継続している事業の中の細かい減額はどのようなものなのか、答えられるところは教えてください。

【発相室長】発達相談室の8千円は、いろいろ精査した結果の8千円ということなんですが、一番の理由は、労働保険料の支払いが、これまで労働保険料を発達相談室という事業所という扱いで労働保険料を払ってきたんですが、昨年恵那の労基所から指導を受けまして、発達相談室は事業所に該当しないということで、市からの支出になりましたので、その分が減額になりました。ほかは多少消耗品が減ったりということではありますが、発達相談室ではそれが主な理由です。

【田島委員】あちらこちらの小さな減額にもしっかりした理由があるには決まっているんですけど、今おっしゃった3千円だと、上手な節約と上手な見直しの結果ということになっているようなわけですね。こういう、たくさん見越して挙げていたものを少なくして減額になるということは、中津川市の財政のためにもなっていくしますので、できるだけ上手な節約、見直しをこれからも続けていかれるといいと思います。

【発相室長】保育所等訪問支援の3千円というのは、燃料代の減額で、単価が変わったということだけのことです。

【委員長】そのほかございますか。

それでは、引き続き、生涯学習スポーツ課から提案説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

【委員長】それでは、生涯学習スポーツ課について、ご意見、ご質問ありましたら

お願いします。田島委員。

【田島委員】12ページ、生涯学習総務事業の、社会教育委員会負担金等とあります。最初の説明では社会教育委員の会とおっしゃいました。ここには「の」は入れなくていいんですか。

【生ス課長】この負担金に関しては県の組織あるいは東濃の組織に関する負担金です。基本的には中津川市のは社会教育委員の会と言いますが、社会教育委員会という形でやっていますので特に問題はありません。

【委員長】そのほかよろしいでしょうか。

続きまして、文化振興課につきまして、ご意見ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】歳出の文化振興事業の第10回島崎藤村記念文芸祭と文章書き方講座で、282万6千円の増額とあります。藤村記念の賞金が多くなったんですか。

【文振課長】人件費の関係になりますので説明しづらくて申し訳ございません。増額の理由は口頭では申し上げましたが、事業概要の「等」というところに重さがあります。その下の美術展開催事業で、全国公募展と市民展の開催がございます。現在美術系学芸員が産休育休で休んでおりますので、文化振興事業の方で学芸員を確保するための人件費の予算として増額となっております。島崎藤村記念文芸祭に関しては、確かに第10回となりますが、運営主体が文芸祭実行委員会というところが主体となってございますので、通常の支援のほかに文章の書き方講座ということで市内の大島一洋先生という方をお願いして、多分中央公民館になると思うんですけど、そちらで講座の開催をする予定です。費用はそれほど高額には予定していませんが、おおよそ20万円ぐらいをかけて講座を開催する予定です。

【田島委員】熊谷守一展と青邨大賞は大変高額な賞金額で、全国的に公募しています。これはもちろんすばらしい方々で、中津川の目玉になるような方々の大賞展なんですけど、島崎藤村も日本の文学においては非常に大切な方で、もちろん中津川も、長野県も藤村を大事にしてはおられるんですけど、それにしても、藤村記念の賞金額、センセーショナルなものではないような気がしています。これも一つの中津川の目玉ということで、こういうところにもう少し力を入れて、中津川をクローズアップさせる種にもしていただけると有り難いと思うんですけど、いかがでしょうか。

【文振課長】確かに田島委員がおっしゃる通りです。島崎藤村という文豪は大変重い名前であるにもかかわらず、開催規模は非常に小さい。賞金も含めて。今後その辺は財政当局との交渉になるかと思うんですけど、まずは平成27年度に創作部門ということで新しい部門も追加しました。少しずつできるところから全国知名度も挙げていきたいですし、内容も充実したいと思いますので、どうかまたアイデア等含めてご指示いただければと思います。

【委員長】そのほかよろしいでしょうか。

続きまして、図書館に関してございましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】直接図書館のことではないんですが、図書館くらぶさん、読書サークルさんなどいろいろなボランティア活動をしているところが図書館を支えているということです。こういう皆さん方の資金はどう調達されているのでしょうか。

【図書館長】それぞれの団体さんで多少の違いはあると思いますが、構成されている団体あるいは個人から集めた会費等と、活動の中から上がってくる収益、たとえば図書館くらぶさんは古本市を行ったりとか、そういう収入があり、それに交付金加わって活動されていると認識しています。

【田島委員】本当に大切なボランティア団体の方々だと思います。ボランティアというのは体を動かして自分の時間を使うというのがボランティアであって、お金を持ち出すということがボランティアに入るかというのは難しい問題で、気持ちの問題も変わってくると思います。できるだけ図書館くらぶなり読書サークルなり、図書館に対して頑張ってボランティアをやっている方々へ活動資金を寄付させていただけるようなシステムなり、何かそういうものを作って差し上げればもっと活動が自由で、大きくなるような気がします、いかがでしょうか。

【図書館長】各団体等への寄付というのをこちらで考えるという発想はありませんでしたが、もちろんそうしたことはそれぞれの団体にとっても、私がいいとは言えないのですが、喜ばしいことであろうということは想像できますので、またそうした提案もしながらいい方法があれば併せて考えていくようにしたいと思います。そうした折にはいろいろとご協力をお願いしたいと思います。

【田島委員】お金の話とは外れるかもしれませんが、図書館くらぶは六斎市に合わせて古い本を集めて自己資金の古本市を行っています。出すと1回につき上限5千円ぐらいは集まると聞いています。その本もたくさんの方が要らなくなった方が図書館に相談にみえるんですが、それをこういうふうにして使わせていただいているのかという許可をもらい、本当にリサイクル、リサイクルという形でお金にしたり最終的に捨てる本を少なくという形で資金を作っています。また、図書館まつりでは、くらぶでは焼き芋をやりました。自分たちの畑で採ってきた芋を焼いて10円とか30円とかで売ってしていました。そういう地味な資金集めをしています。それから、先日は図書館で、ジュニアボランティアがいて、資金ではありませんが、使えなくなった本を段ボールに詰めて国際シャンティーの会に送ります。そうすると10冊の本が貧しい子どもたちの20冊のノートになりますという活動です。この間20箱送って金額は475円でした。13名のジュニアボランティアさんが集まりましたが、本当にそれが嬉しいような、目をキラキラさせながらやっていたことが印象に残ります。お金では買えないような経験も踏まえて、そこからまた自分たちのできる範囲でお金を回すような社会性も身に着いてくれたらいいなと思っています。また、読書サークルもミニゼミを開いての講座で、少し小さいもので

きたら、それをくらぶさんの古本市の横に置いて販売するなど、いろいろな形で工夫をしながら、交付金もベースでありますけれども、自分たちで自助努力をしているという様子をお知らせしたいと思い発言させていただきました。

【委員長】 そのほかよろしいでしょうか。

続きまして、鉱物博物館に関して、ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

今まで一連のものに関しまして、何かほかにありますたらお願いします。

それでは、日程第1、議第2号 中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について、は承認とさせていただきます。

引き続き、日程第2、議第3号 中津川市アートピア付知交芸プラザの設置等に関する条例施行規則の一部改正について、提案説明をお願いします。文化振興課長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】 ただいまの提案につきましてご意見、ご質問ありましたらお願いします。

それでは日程第2、第3号 中津川市アートピア付知交芸プラザの設置等に関する条例施行規則の一部改正について、は承認とさせていただきます。

続きまして、日程第3、議第4号 中津川市東美濃ふれあいセンターの設置等に関する条例施行規則の一部改正について、提案説明をお願いします。生涯学習スポーツ課長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】 ご意見、ご質問ありましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】 協議会のときに詳しく伺いました。その中に、文化会館とふれあいセンターが同じ曜日の休館日だと利用者に対しても非常に使いにくいということも提案理由に入っていたような気がします。それは利用者の立場に立った非常に前向きな考えだと思い、とてもいいことだと思いました。しかし、運営側の利点というのもどうしても見えてしまうような気がします。なぜこんなうがった見方をしてしまうかと言いますと、利用者側に立った改正をしていっていただけるなら、業者側の意見の中でももっとたくさんの方の改正案が出てくるのではないかと考えております。ふれあいセンター、文化会館、常盤座、明治座、蛭子座、各科学館、鉱物博物館、中山道資料館、市が運営している施設はまずは誰のためにあるのか、何のためにあるのか、誰のためにあるのかということから離れてしまって、運営していただくために運営をしていくというような慣習ができてしまっているのならば、それは非常に寂しい、困ったことだと思います。新年度になりますので、新年度にちょうど皆さんが確認できるタイミングだと思いますので、各施設は一体誰のためにあるのか、どういう理由でその施設が存在しているのかということ、できれば改めて話し合いをして確認をしながら、意思統一をして進めていっていただきたいと思っております。たとえば文化会館の事業につきましては、私たちがわくわくして、これなら行きたいとか、そういうドキドキするような事業がたくさん出てくれば市民は一人でもたく

さんの方が足を運ぶ。それが人づくりにつながり、それで住みよい中津川につながっていくということが、道筋としてはこういうところを運営するにはあると私は思います。ですから、できるだけ各館が連携をして動いていく、それを発信された私たちがちゃんとキャッチできるように。キャッチして一歩足が前に出るように計らっていただければ一番いいと思うんです。中津川市で一番動いているところは、図書館と中山道資料館だと思います。そこには、役所の力もあるんですが、やっぱり民間の力が非常に大きく働いているような気がします。ですから、役所の方々の考えだけでなく、民間の考えを取り入れて、しっかりとそれを軸にして私たちを一步でも足の運べるような楽しいところを持って行っていただければという工夫をし、進めていっていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

【生ス課長】この施設については1年間の期間ということで、昨年から利用者の意見をお聞きする期間を設けておりました。ただ、この施設だけの所管の施設という考え方でおりましたので、中津川市の全体のさまざまな施設を包括するような形で、休館日というのをどうしていくかという考えは欠けていたと思います。その点、やはり、今後関係のところだけではなくて、いろいろな形の施設を含めて、休館日というのをどういう形で捉えていくか、あるいはその中で市民の皆さんの意見をどういう形で集約していくかということを考えていかなければならないと思います。

【委員長】原文化スポーツ部長。

【文ス部長】今中津川市の文化施設を含めていろいろな方、外部の方と市民の方と一緒に運用を進めていくという方針を立てております。特に中津川文化会館につきましては、今中津川の文化協会が指定管理者として入っていただいております。その効用は非常に大きくなっていると私自身は感じております。特に鑑賞者を増やしていくこと、また、それぞれの芸能、いろいろな活動団体の担い手をいかに育てていくかという課題がございます。これらにつきまして、一気ににはできませんが、文化協会を通じて、市全体にわたる活動、取り組みをお願いしてきております。今後とも文化協会と連携しながら、市民に寄りやすいよりいい事業を展開してまいりたいと思いますので、よろしく申し上げます。

【委員長】そのほかよろしいでしょうか。

それでは、日程第3、議第4号 中津川市東美濃ふれあいセンターの設置等に関する条例施行規則の一部改正について、は承認とさせていただきます。次回の開催について、教育企画課長。

【教企課長】次回は3月3日午後1時30分からこの6-1会議室で開催します。

【委員長】次回は3月3日木曜日13時30分から6-1会議室で開催します。

以上で平成28年第2回中津川市教育委員会を閉会します。

【閉 会】

[閉 会 (午後3時35分)]